

生徒会だより

一月 八日発行



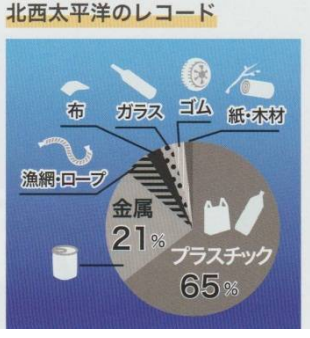
生徒会員の皆さん、夏休み明けに私の作った、海洋プラスチックごみ問題についての生徒会だよりは読んでいただけましたか？2024年に沖縄県で地球子どもサミットの第2弾が行われ、再びプラスチックごみについて考える機会があったので、今回の生徒会だよりでは、その2日間得た情報を皆さんにお伝えしたいと思います。

〜GODAC〜

皆さんはGODACについて何か知っていますか？GODACとは、国際海洋環境情報センターのことで、海と地球に関する情報を整理・保存して科学、教育等の分野で利用できるようにインターネットなどを通じて発信する機関です。GODACでは海洋プラスチックごみに関する情報も発信しており、そこで得られた情報も交えながら私から皆さんに発信していきたいと思っています。

〜深海デブリ〜

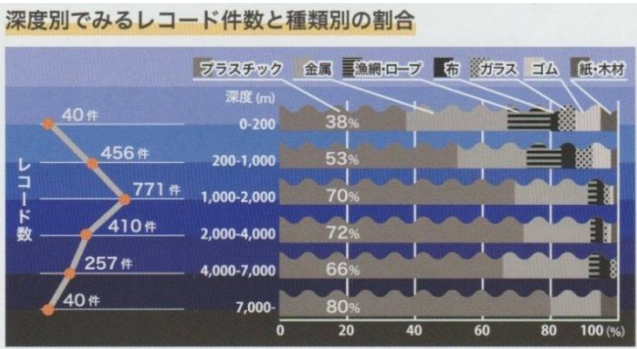
深海デブリとは、深海に漂っているゴミのことで、その大部分がプラスチックごみであると予想されます。前回の生徒会だよりでも書いたように、プラスチックは分解されるのに非常に長



い時間がかかります。また、マイクロプラスチックといわれるほどの大きさになってしまうと、全てを回収するのはほとんど不可能です。このような理由で、海の中に漂っているごみの半分以上がプラスチックです。また、ごみ全体の記録をグラフ化してみると、非常に危険な状態であることがグラフからも分かります。

また、現在プラスチックゴミを調べるために船が動くということがほとんどないのに加えて、現時点で調査されていない海はとも多いため、実際にはもっと多くのプラスチックごみが海に存在しているかもしれません。

次に、左図を見てください。資料によると、他のごみと違い、プラスチックは深ければ深いほど多く海に存在している可能性があります。当然のように、より深海にあるごみの方がゴミだけを回収することが難しく、深海魚が大きな被害を受けることが考えられます。また、海底にプラスチックごみがたまることで、将来的に海面が上昇し、地球温暖化と共に陸地を水没させてしまうかもしれません。



2. 深海底に沈んだデブリの数々

※ 写真右側の記載は上から、デブリ内容、撮影された日付・海域・深度です。

<p>一斗缶 2003年7月28日 西津軽海盆 2,103 m</p>	<p>土嚢袋・ガラ袋 2009年9月4日 日本海溝 5,347 m</p>
<p>人工物 2009年9月22日 日本海 915 m</p>	<p>ポリ袋 (多数) 1988年2月13日 駿河湾 1,386 m</p> <p>おびたしいポリ袋の映像 → → → →</p>
<p>ポリ袋 1997年8月12日 南海トラフ 4,791 m</p>	<p>袋・シート類 [ポリ袋など] 1998年5月20日 マリアナ海溝 10,898 m</p> <p>1万メートル超の海底にも</p>

※ 地図上にあるオレンジの部分はデブリが観察された位置です。

関心を持つことが状況の改善につながります。興味を持った人は是非、海のごみや GODAC について調べてみてください。

掲載してある画像は全て GODAC で配布された資料から引用しました
作成者：青梨光祐